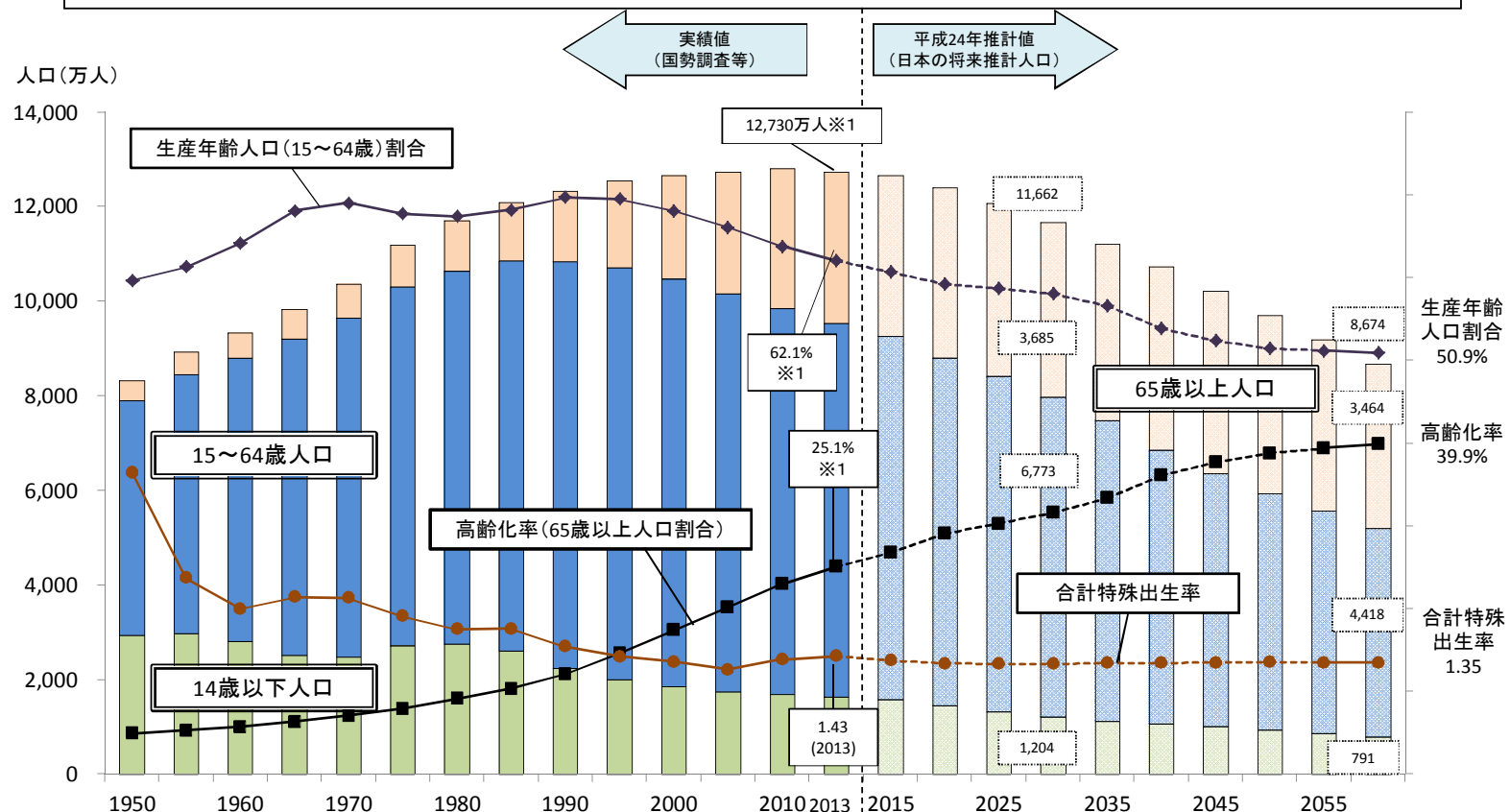


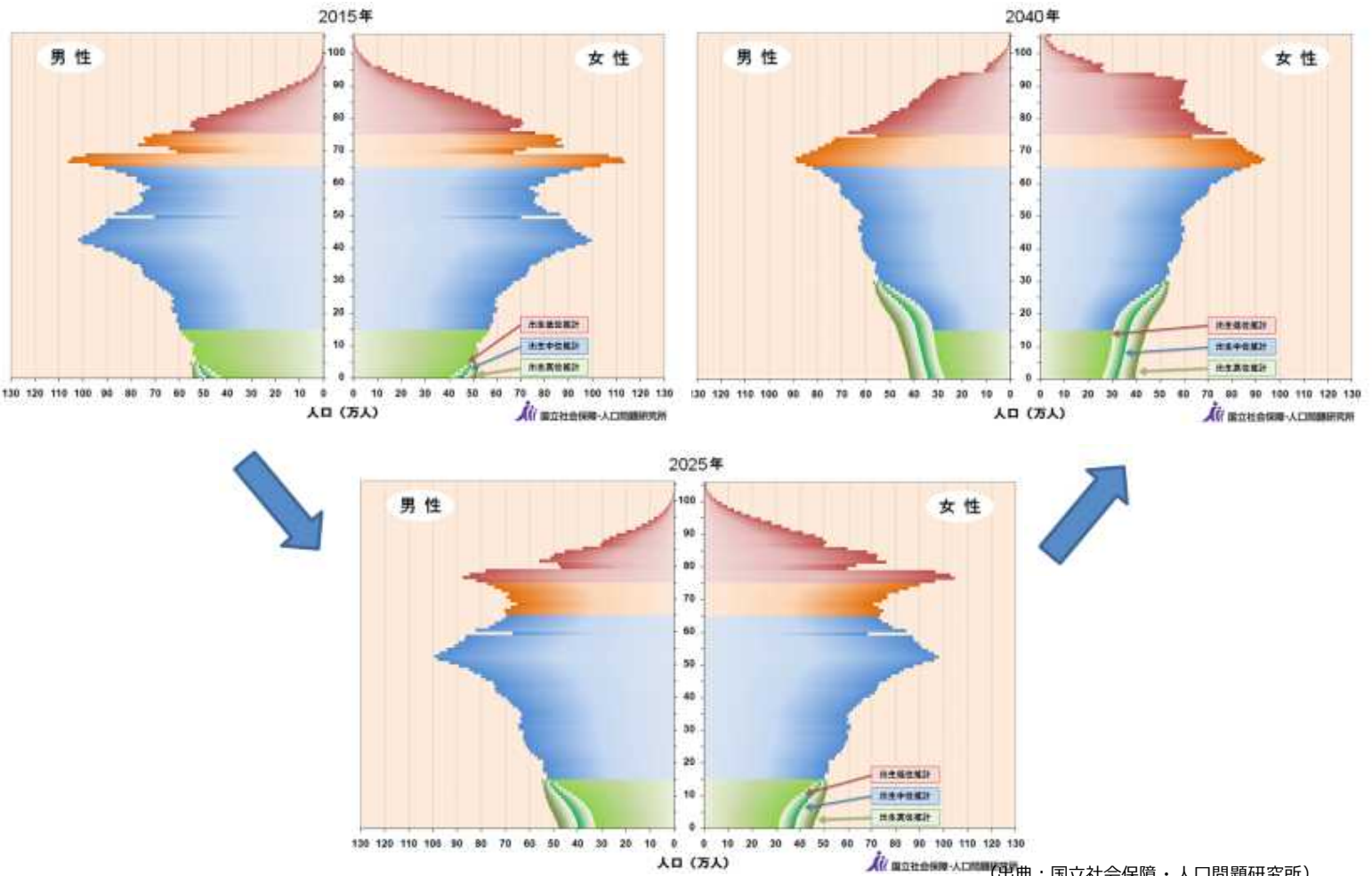
歯科医師需給問題を取り巻く状況

日本の人口の推移

○ 日本の人口は近年横ばいであり、人口減少局面を迎えている。2060年には総人口が9000万人を割り込み、高齢化率は40%近い水準になると推計されている。

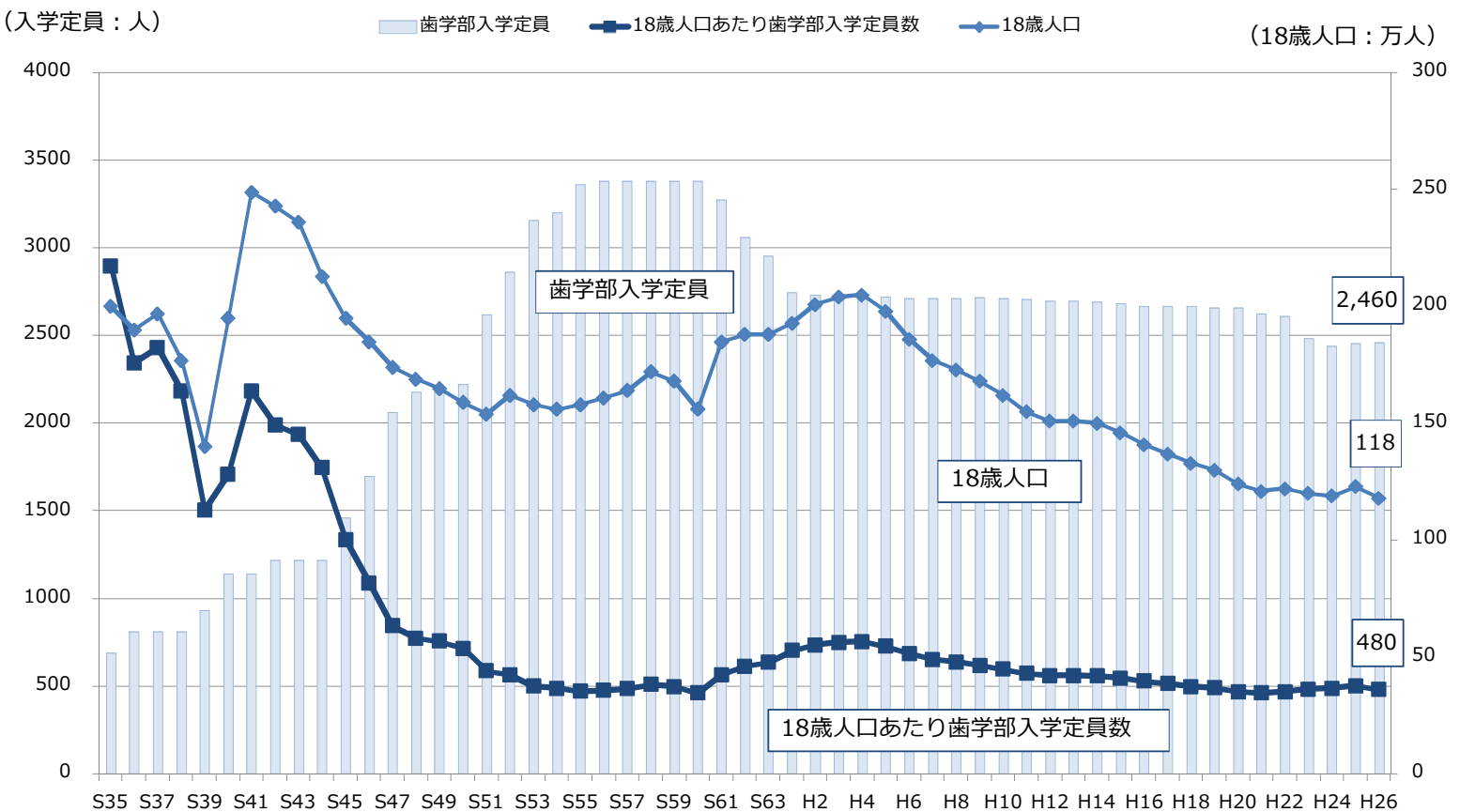


人口ピラミッドの推計



3

18歳人口あたり歯学部入学定員数



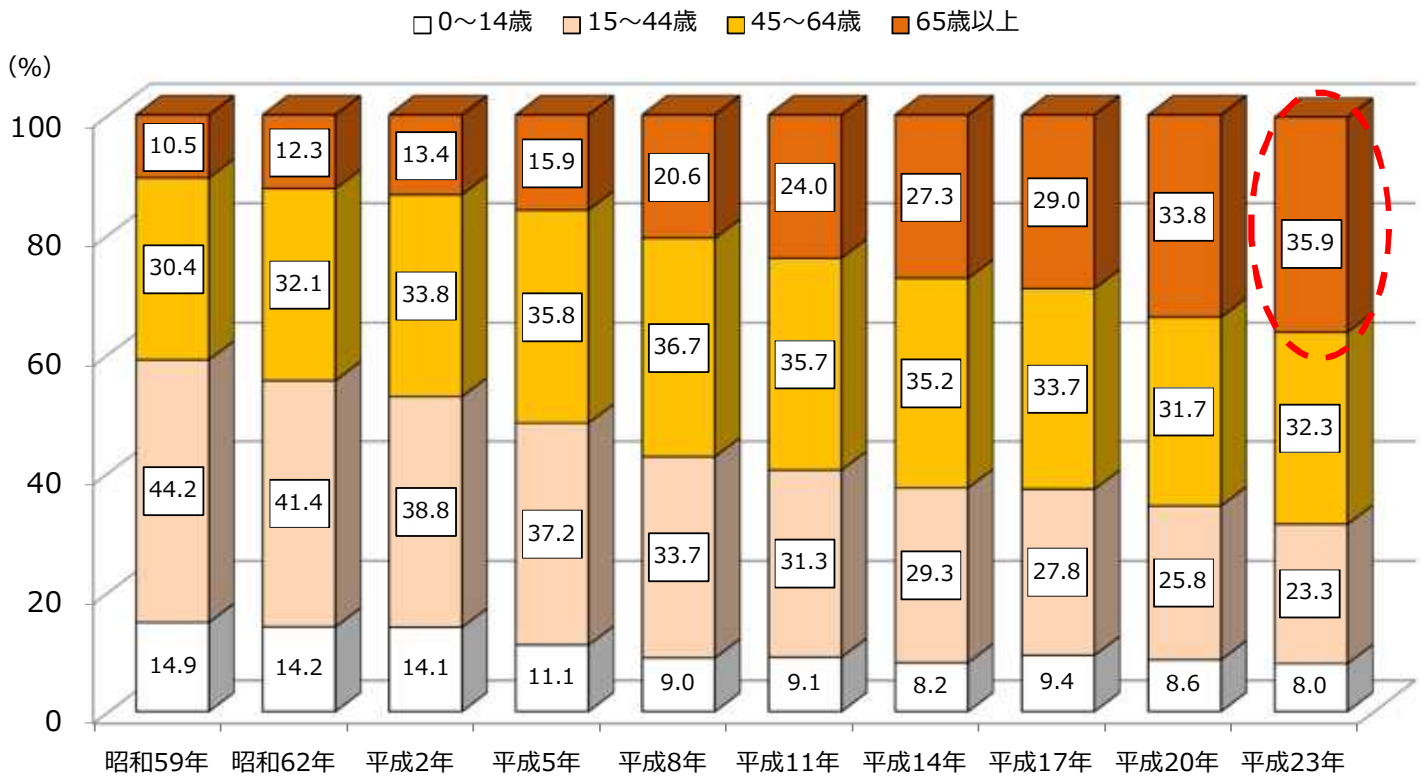
注：18歳人口あたり歯学部入学定員数は、18歳人口/歯学部入学定員数で算出

(出典：学校基本調査を基に作成)

4

歯科診療所を受診する推計患者の年次推移（年齢階級別割合）

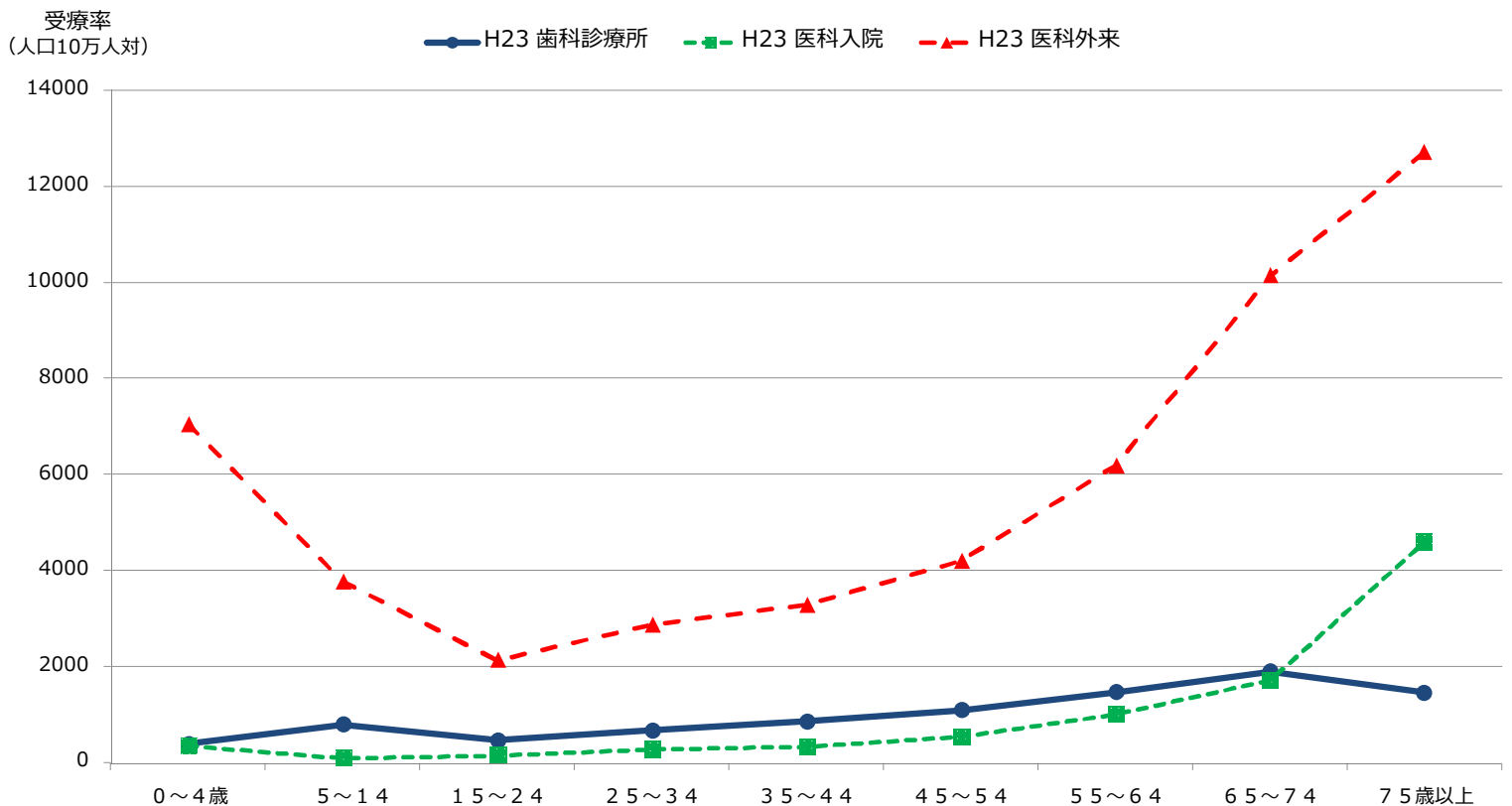
高齢化の進展に伴い、高齢者の歯科受診患者は増加しており、**歯科診療所の受診患者の3人に1人以上が65歳以上**となっている。



注) 患者調査のデータ（層化無作為抽出した歯科診療所（約1,300施設）において、平成23年10月18、19、21日の3日間のうち指定した1日を利用した患者から推計した年齢構成別の推計患者数）を割合にて算出（出典：患者調査）

医科・歯科受療率

医科外来・入院ともに成人期以降の受療率は増加傾向であるが、**歯科診療所（外来）は75歳以上で減少**。

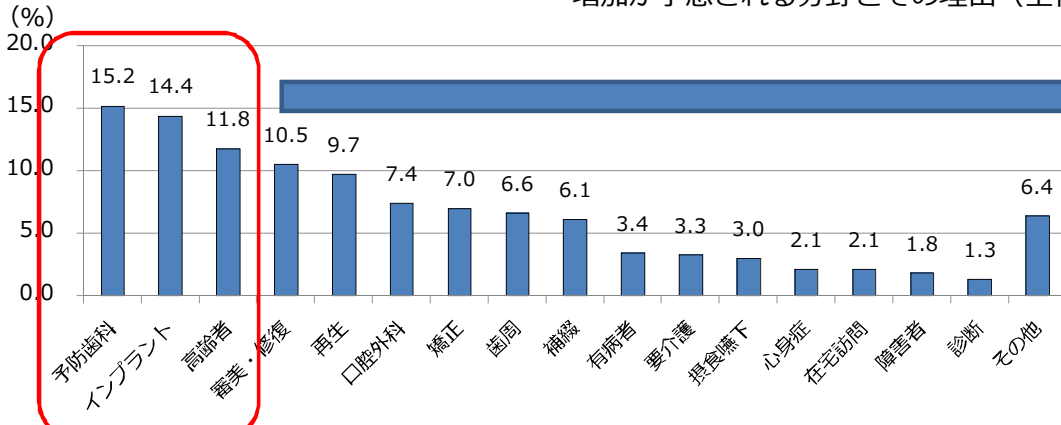


参考：平成17年・20年も上記と同様の傾向を示している。

（出典：患者調査）

今後需要の増加・減少が予想される歯科医療の分野（平成17年度）

増加が予想される分野とその理由（上位2つ）

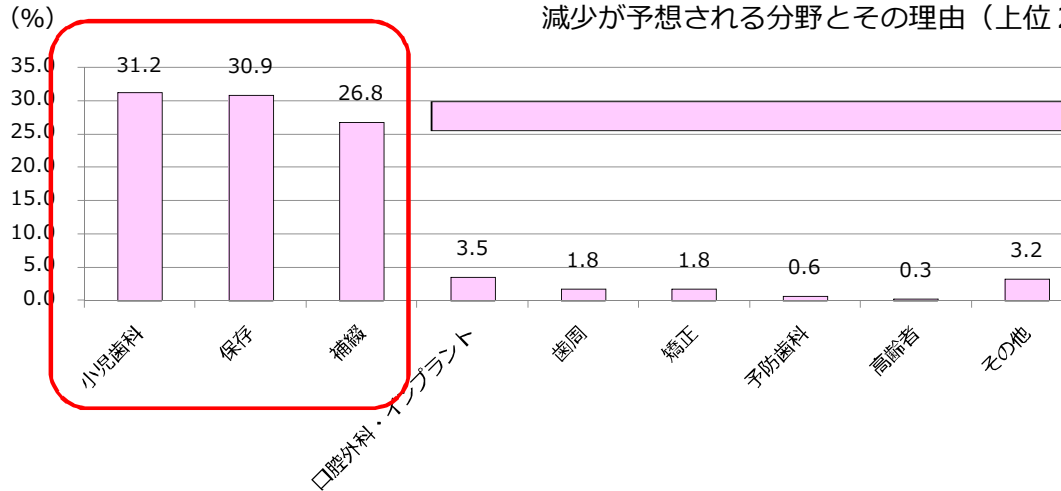


予防歯科
国民意識の向上：53.0%
人口構造の変化：18.1%

インプラント
QOLの向上：50.0%
高齢者の増加：27.5%

高齢者
少子高齢化：65.5%
需要の増加：10.7%

減少が予想される分野とその理由（上位2つ）



小児歯科
少子化：58.7%
予防の成果：35.8%

保存
予防の成果：68.6%
国民意識の向上：15.2%

補綴
予防の成果：54.3%
インプラントへ：13.8%

（出典：「新たな歯科医療需要等の予測に関する総合的研究【平成17年度厚生労働科学研究】」）

20歯以上の歯を有する者の割合の推移

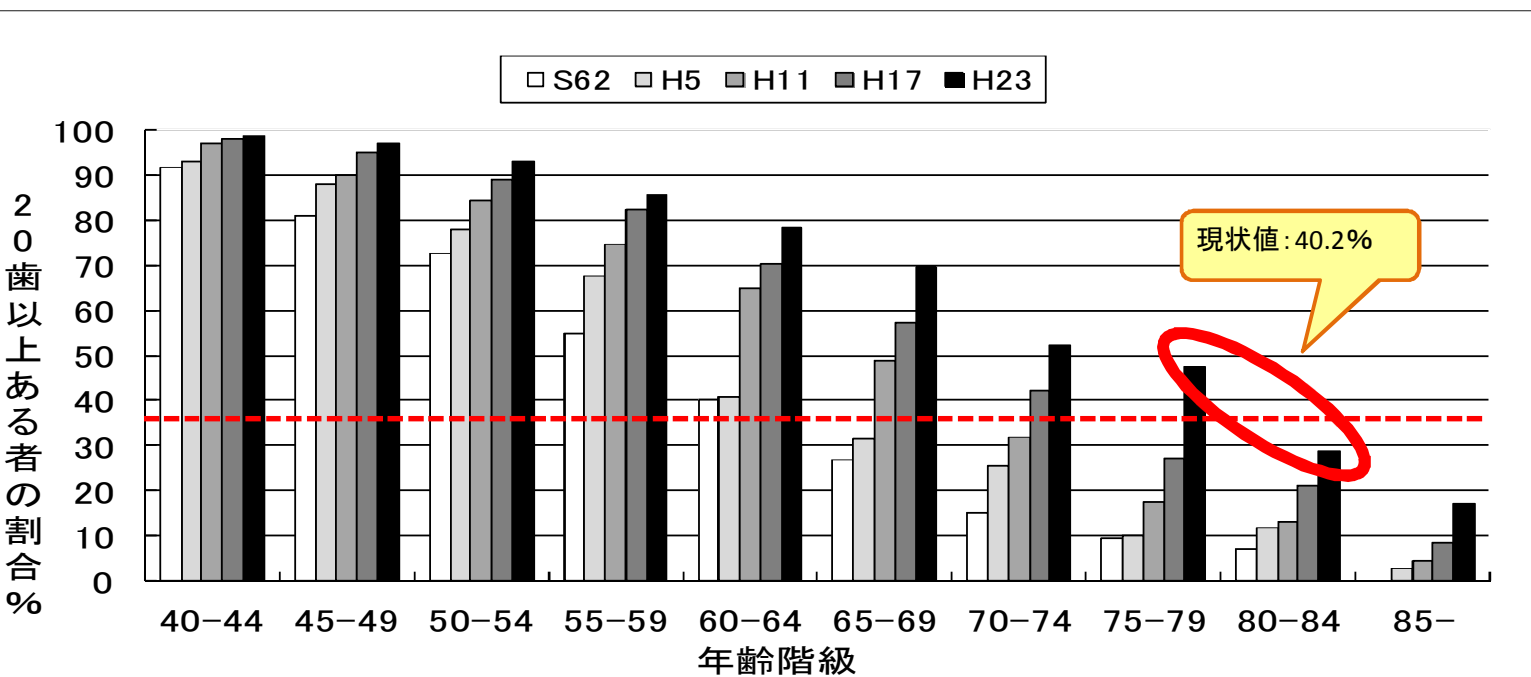
【8020運動の主な経緯】

平成元年：8020（ハチマル・ニイマル）運動が提唱される。

平成12年：都道府県を実施主体とした「8020運動推進特別事業」が開始される。

平成17年：「平成17年歯科疾患実態調査」実施。調査開始以来、8020達成者が初めて20%を超えた。

平成23年：「平成23年歯科疾患実態調査」実施。8020達成者が40.2%となる。

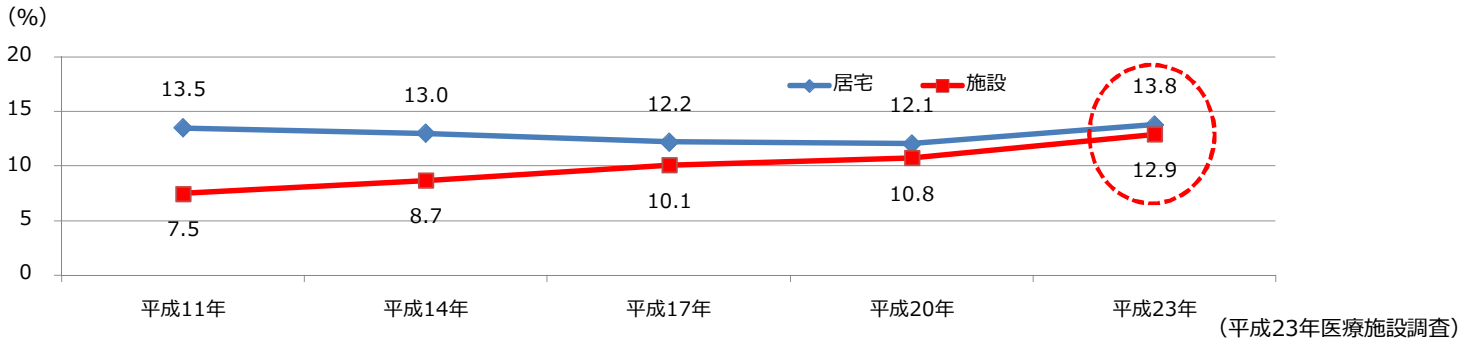


（出典：H23歯科疾患実態調査）

歯科訪問診療を実施している歯科診療所の割合（訪問先別）

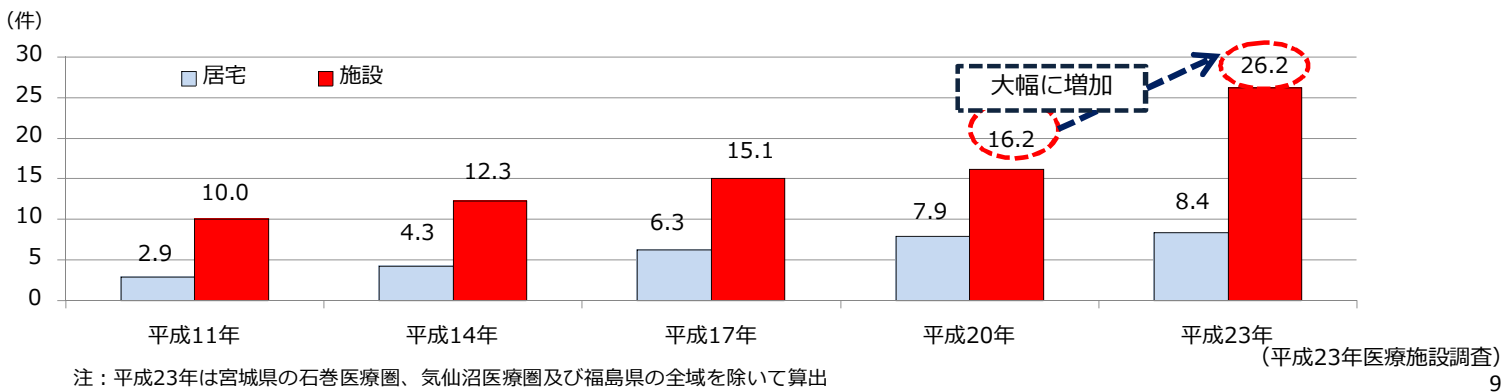
中医協 総 - 3
25.10.23

- ・施設において歯科訪問診療を実施している歯科診療所は、調査を重ねるごとに増加している。
- ・居宅において歯科訪問診療を実施している歯科診療所は、減少傾向にあったが、今回調査では増加している。



1 歯科診療所当たりの歯科訪問診療実施件数（毎年9月分）

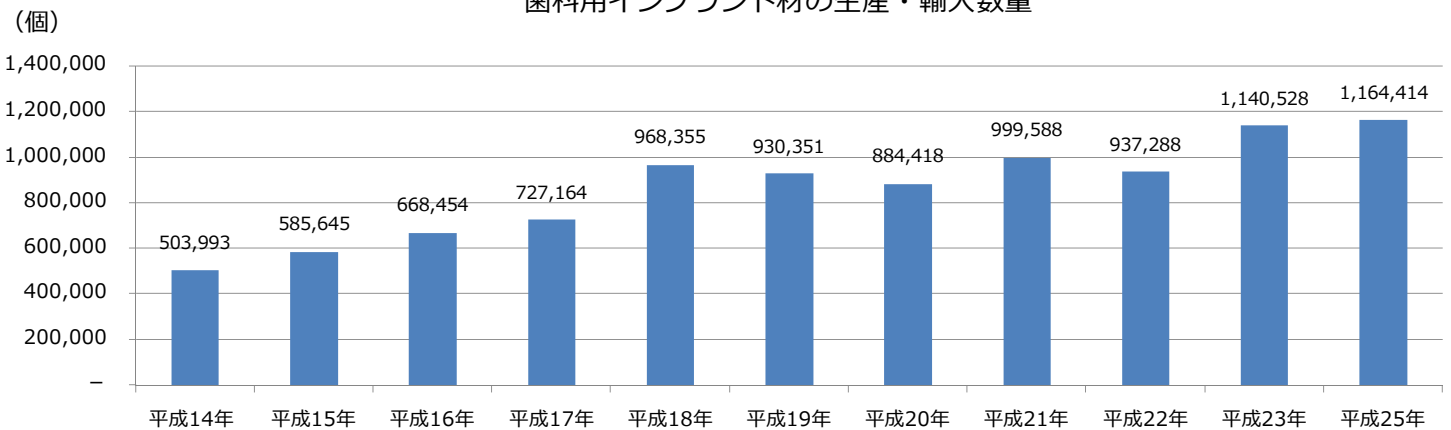
- ・1歯科診療所当たりの歯科訪問診療実施件数（9月分）は、調査を重ねるごとに増加しており、特に、施設での増加が顕著



インプラントの状況

- ・歯科用インプラント材の生産及び輸入数量については経年的に増加している。
- ・約2割の歯科診療所でインプラント手術が実施されている。

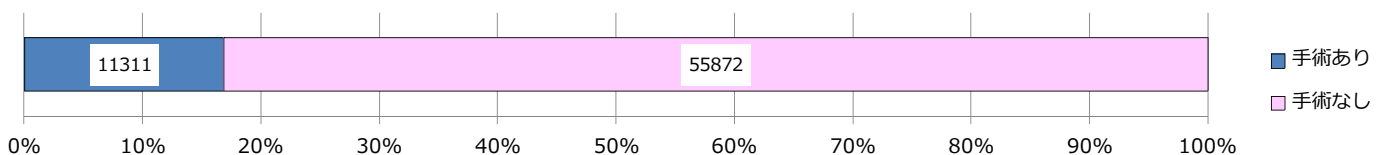
歯科用インプラント材の生産・輸入数量



注) 上記は、生産及び輸入数量を合算している。なお、平成24年データは集計結果の正確性が確認できないため除外している

(出典：薬事工業生産動態統計調査)

インプラント手術を実施している歯科診療所数



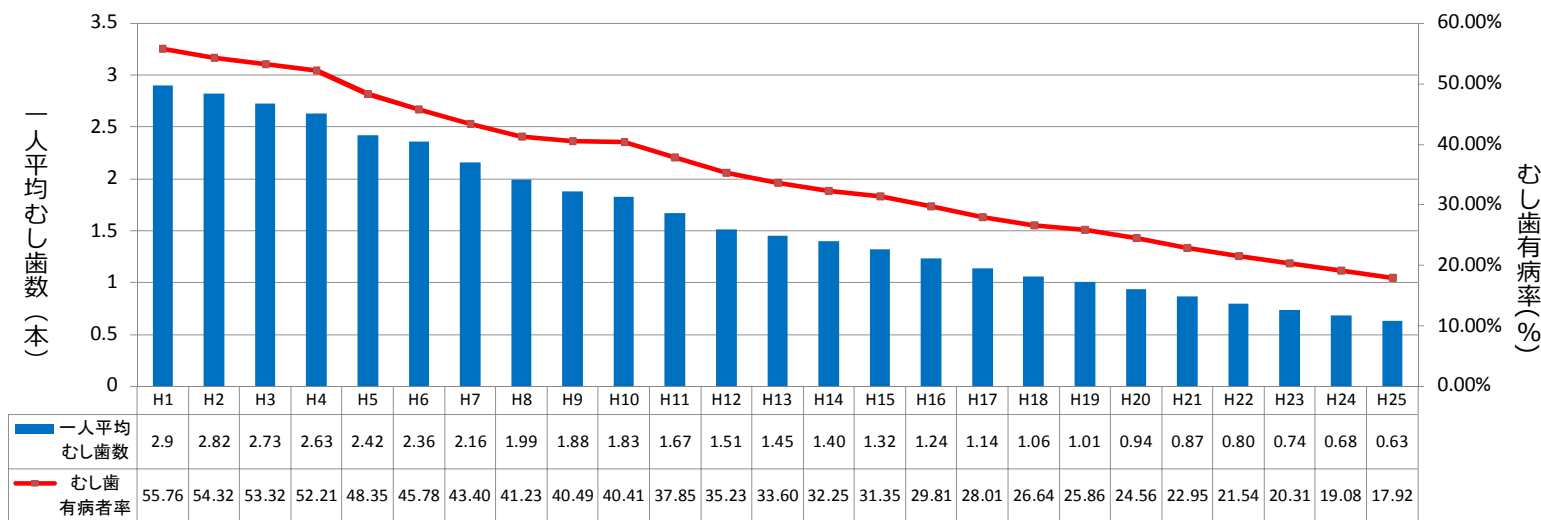
注) インプラント手術の実施状況については、平成23年調査から集計開始

(出典：平成23年医療施設調査)

小児のむし歯数の状況等

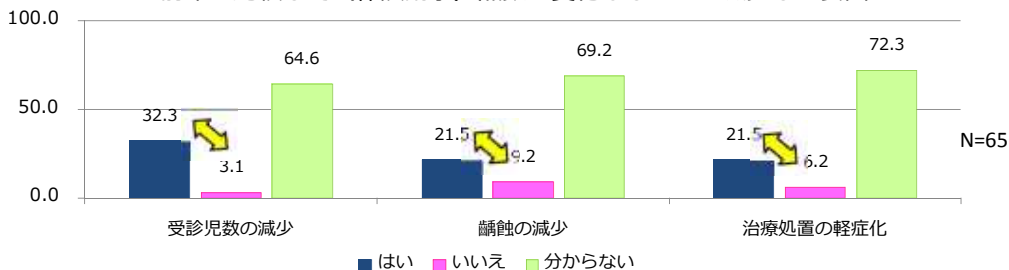
3歳児の1人平均むし歯数は、2.90本（H1）→**0.68本（H24）**と年々減少しており、さらにむし歯有病者率も、55.76%（H1）→**17.92%（H25）**と減少している。

3歳児の一人平均むし歯数



前年と比較して（保険請求）点数が変化なしまたは減少した要因

（母子保健課・歯科保健課調べ）



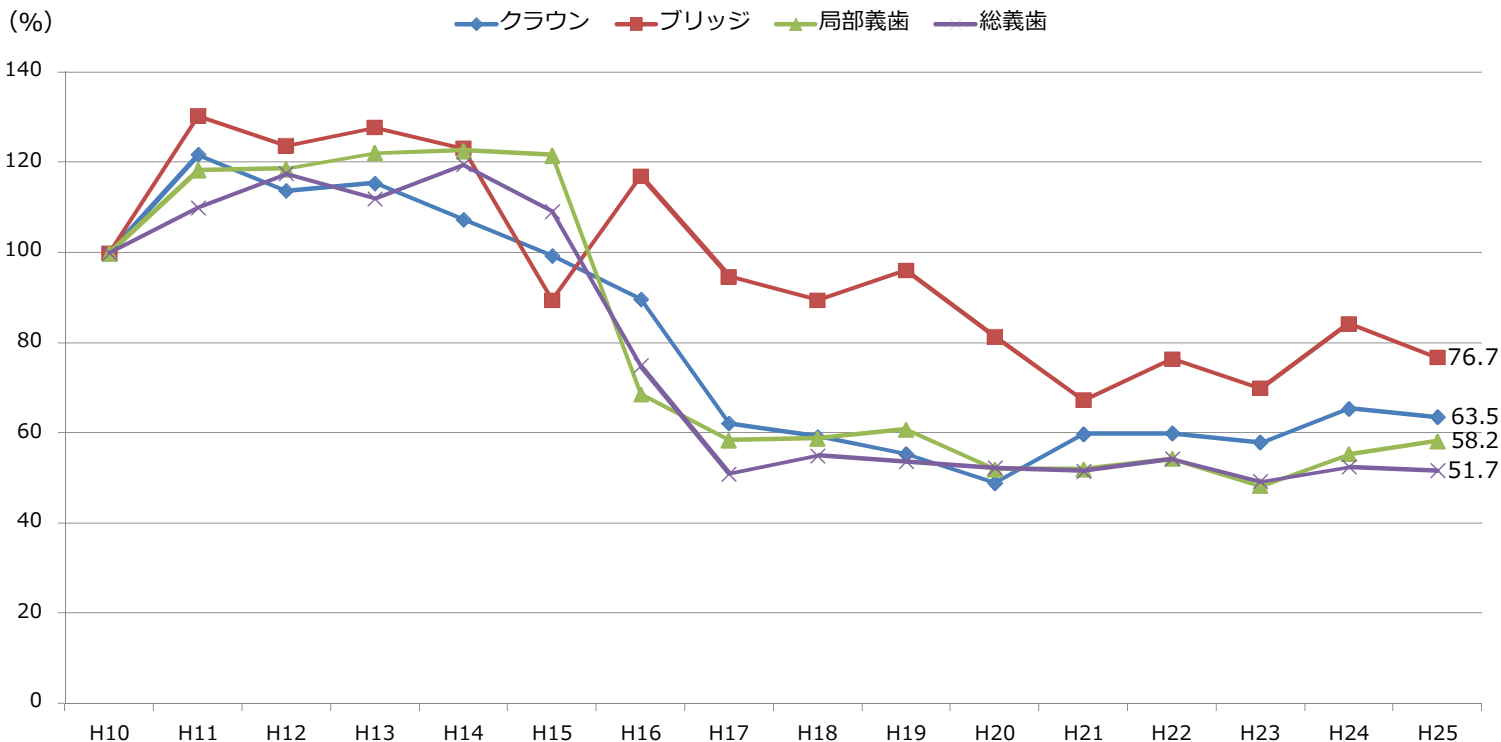
（H24小児歯科学会調べ）

11

補綴物の状況

（平成10年の算定回数を100とした時の各補綴物の算定回数）

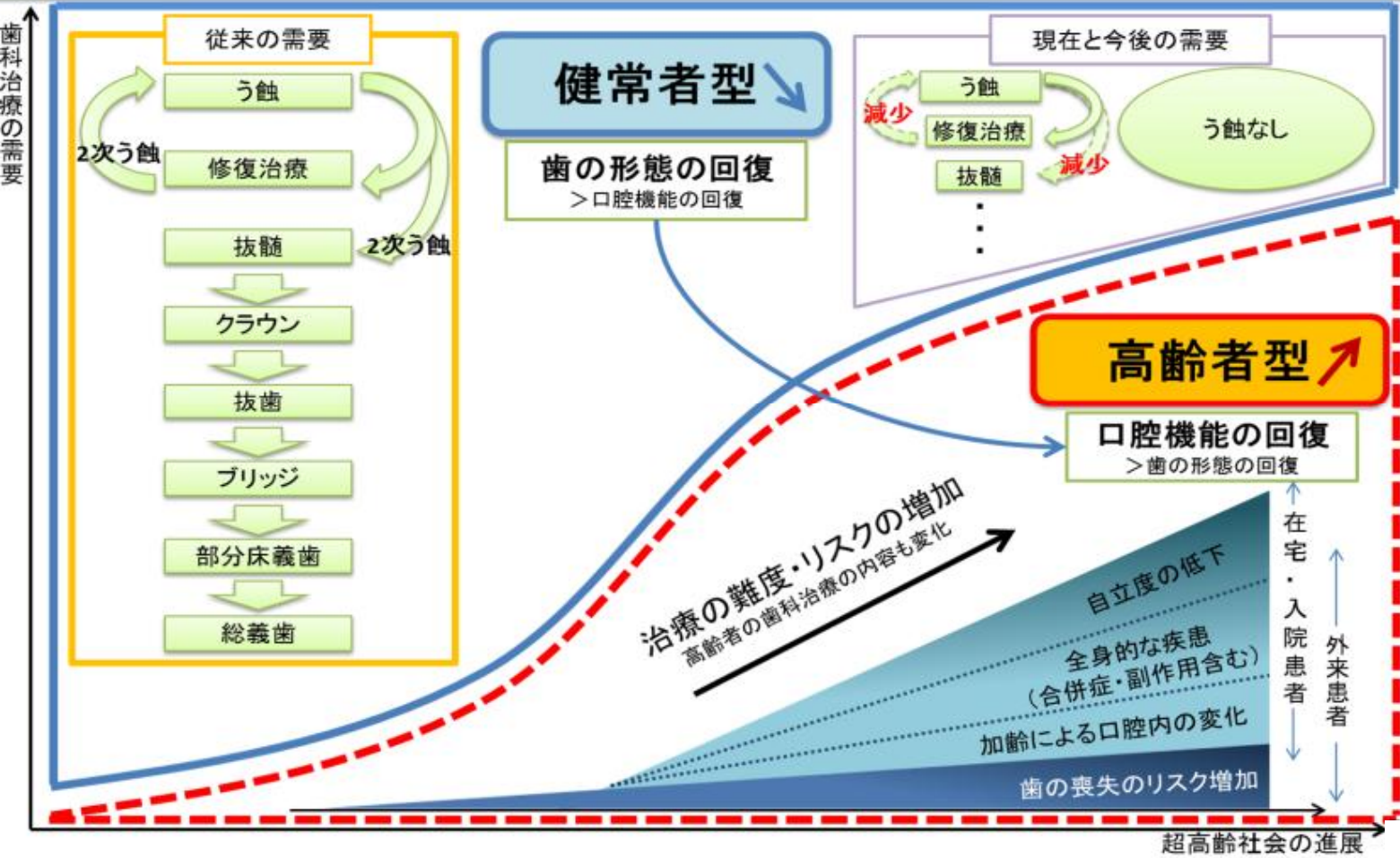
平成10年と比較して、すべての補綴物において算定回数が減少。特に**総義歯や局部義歯の義歯の算定回数の減少が顕著**。



注）H10社会医療診療行為別調査の各補綴物の「装着」回数を100%とした場合に、各年の回数を割合で算出

（出典：社会医療診療行為別調査）

12

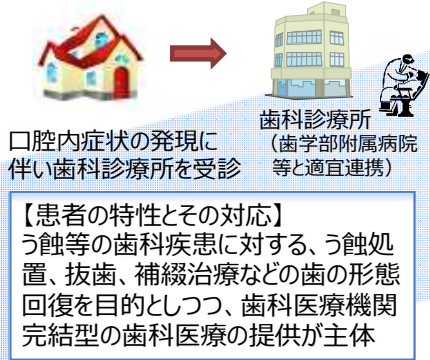


13

歯科医療サービスの提供体制の変化と今後の展望

- 近年の歯科保健医療を取り巻く状況の変化
 - ・高齢化の進展等の人口構造の変化
 - ・う蝕の減少等の疾病構造の変化
 - ・ITの普及等による患者意識の変化
 - ・歯科治療技術の向上

1980年



2010年



2025年(イメージ)



人口ピラミッドの変化(1980、2010、2030)

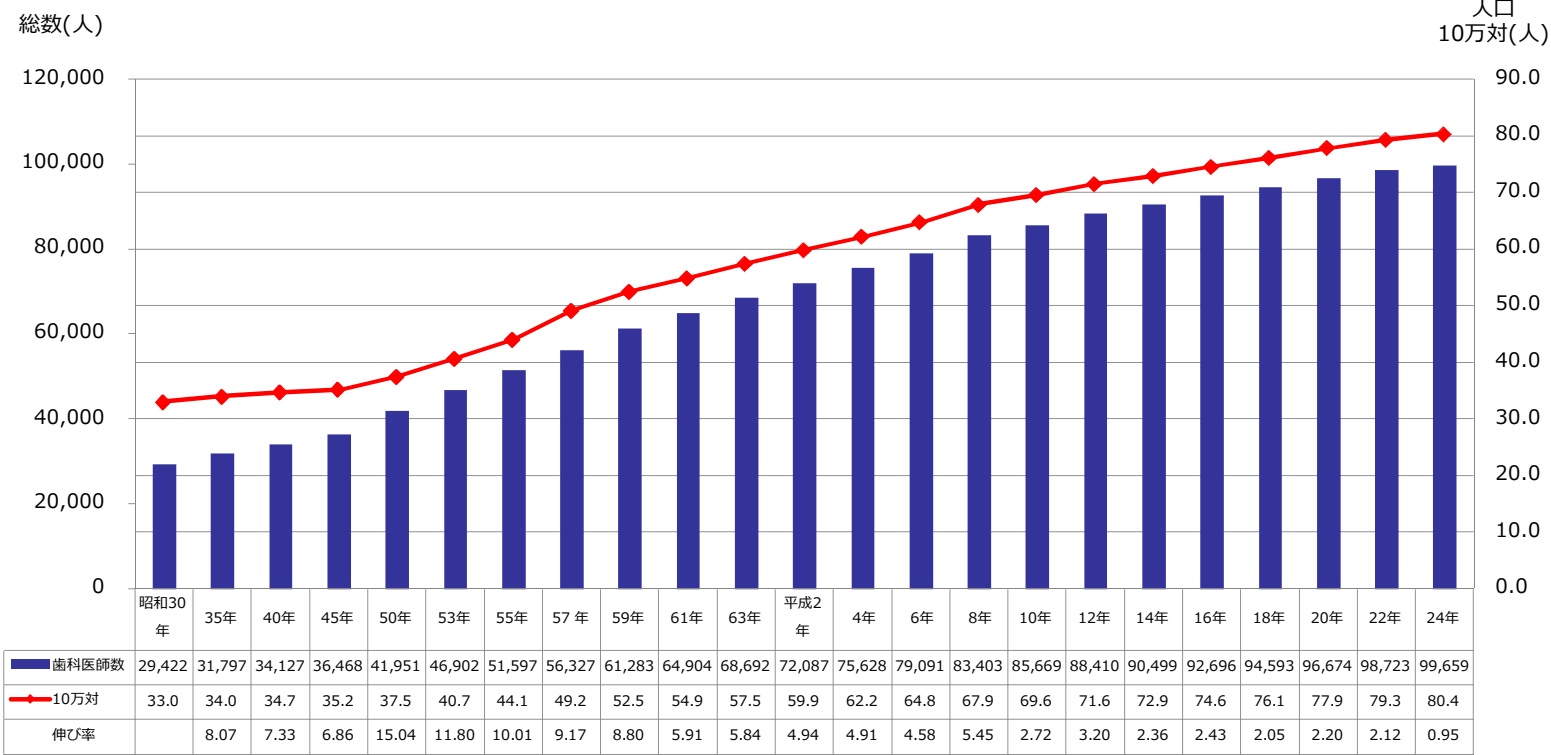
出典: 国立社会保障・人口問題研究所ホームページ (<http://www.ipss.go.jp/>)

- 1980年代までは、う蝕処置や補綴治療など、歯の形態回復を主体とした医療機関完結型の歯科医療の提供が中心であった。
- しかし近年の歯科保健医療を取り巻く状況の変化に伴い、各ライフステージや身体状況に応じた歯科保健医療サービスを提供できる体制への転換が図られるようになり、これからは地域完結型の歯科医療提供体制の構築が重要である。

14

歯科医師数（医療施設従事者数）の年次推移

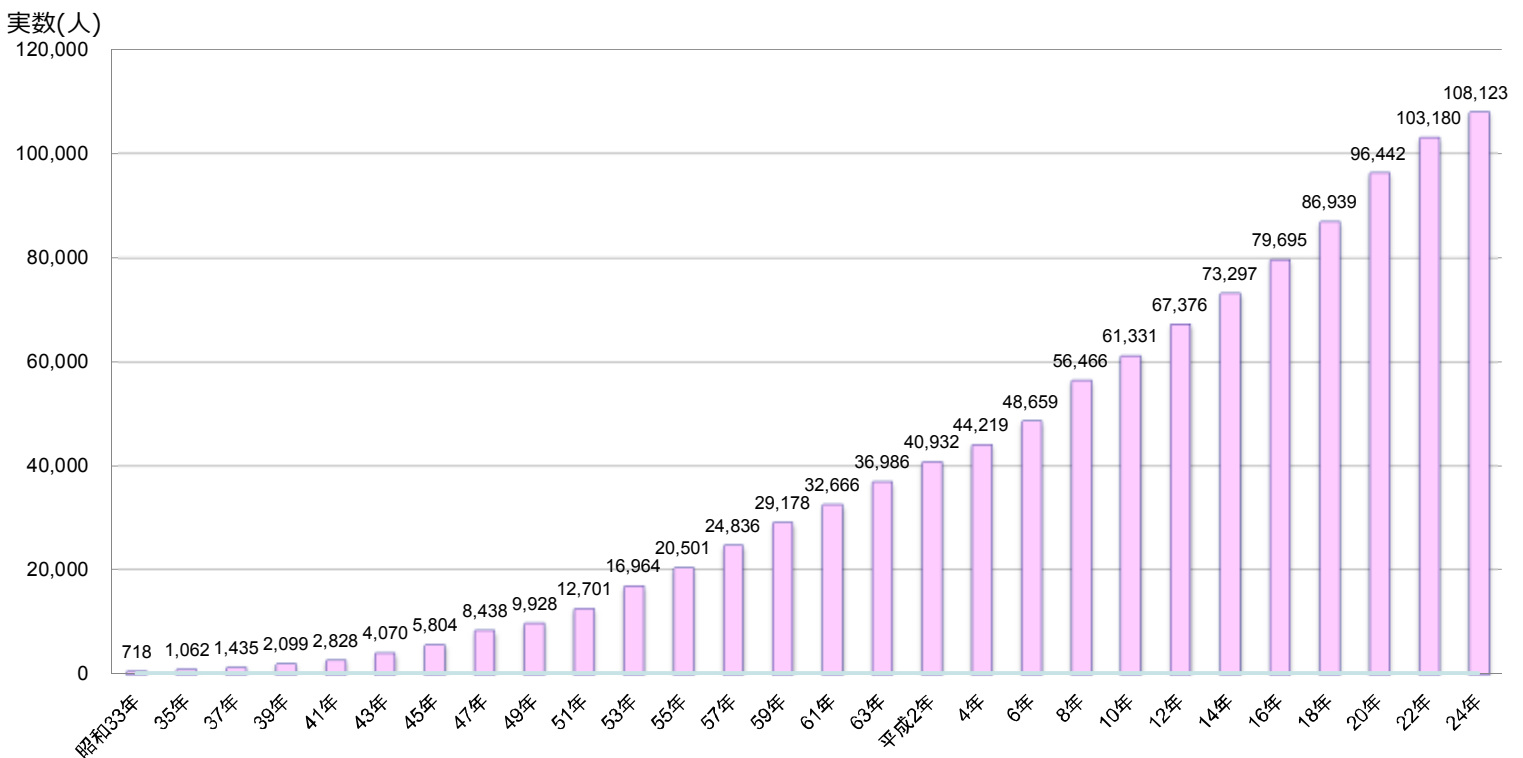
- ◎平成24年の**歯科医師総数は102,551人**、そのうち**医療施設従事者数は99,659人**
- ◎人口10万対歯科医師数は、S45：35.2人→S53：40.7人→H4：62.2人→H14：72.9人→H24：80.4人と増加
- ◎医療施設に従事する歯科医師の伸び率（平成22年→平成24年）は、**0.95%**とやや鈍化



(出典：医師・歯科医師・薬剤師調査)

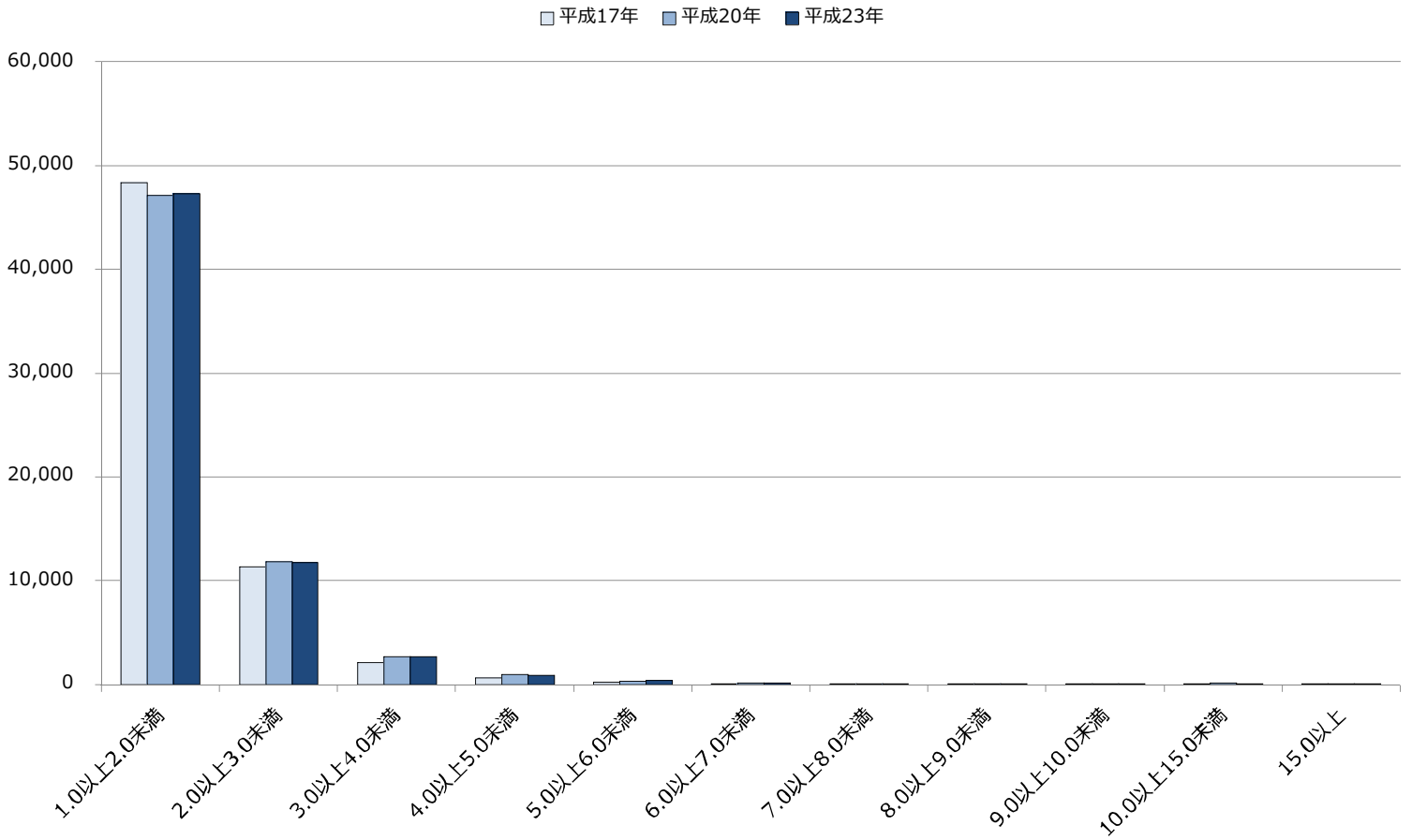
就業歯科衛生士数の年次推移

- ◎就業歯科衛生士数は
S45 5,804人 → S53 16,964人 → H4 44,219人 → H14 73,297人 → H24 **108,123人** と増加傾向。



(資料：衛生行政報告例)

常勤換算歯科医師数別の歯科診療所数の推移

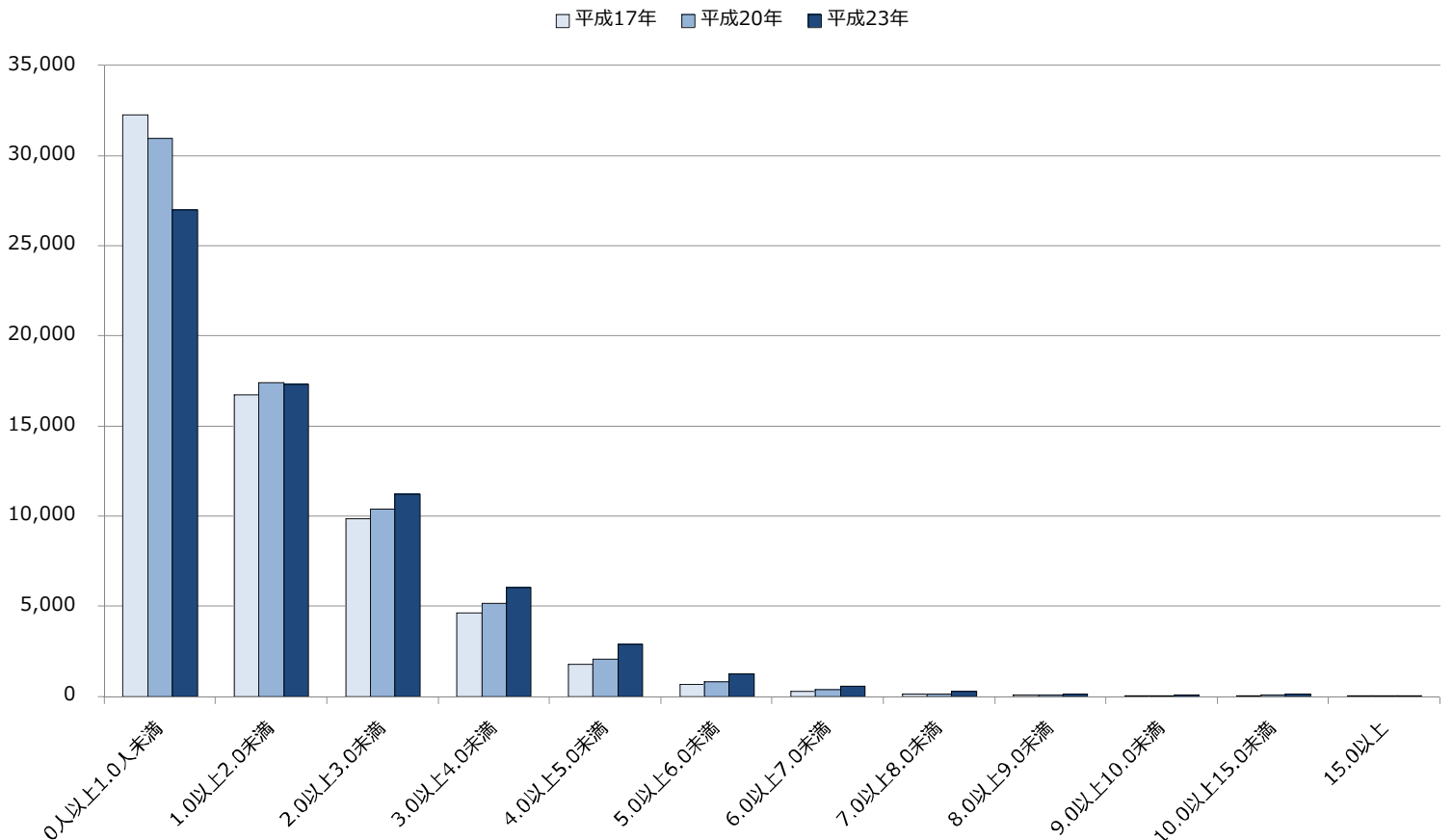


注1：不詳等は除いている

注2：平成23年は宮城県の上巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県の全域を除いている

(出典：医療施設調査)

常勤換算歯科衛生士数別の歯科診療所数の推移

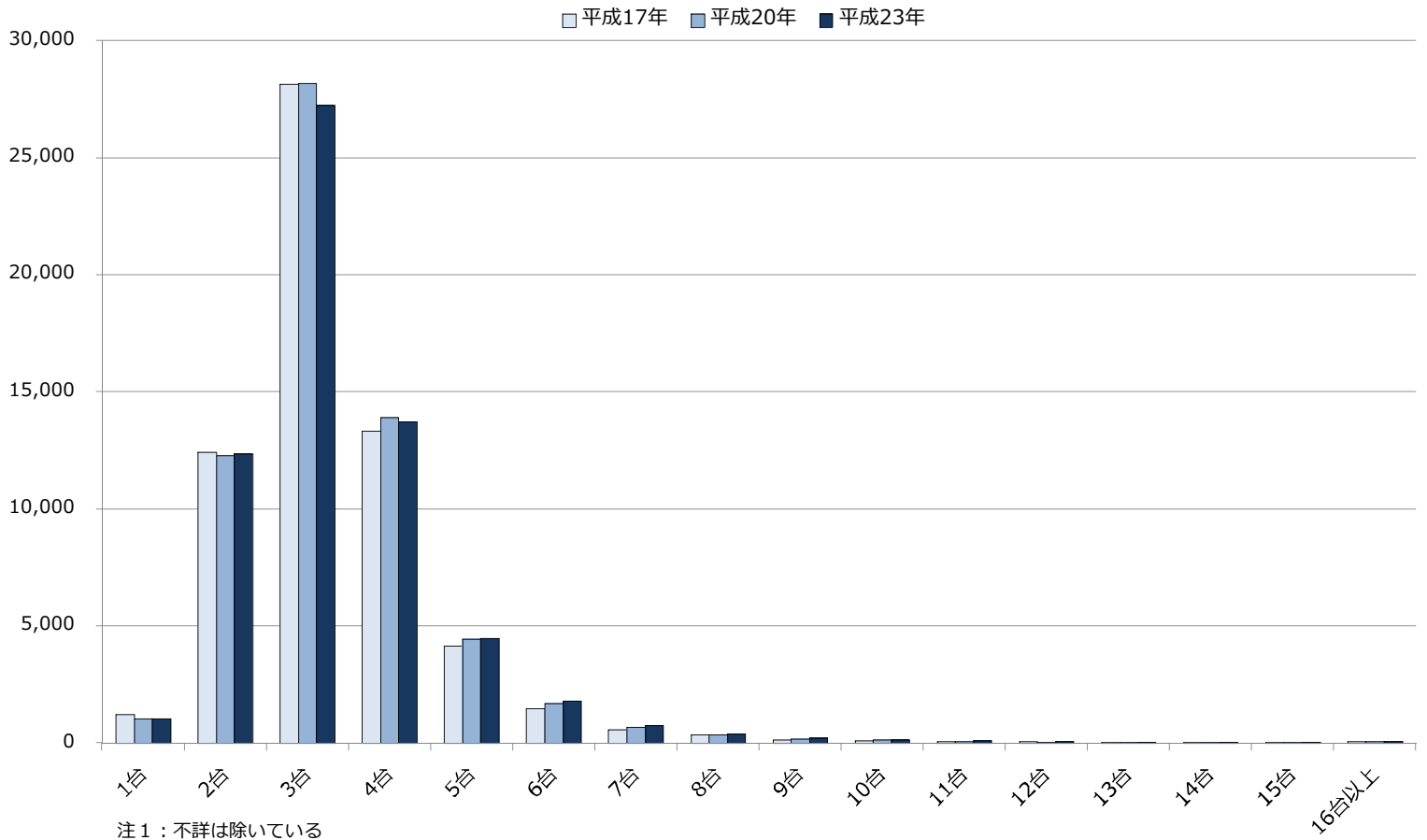


注1：不詳は除いている

注2：平成23年は宮城県の上巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県の全域を除いている

(出典：医療施設調査)

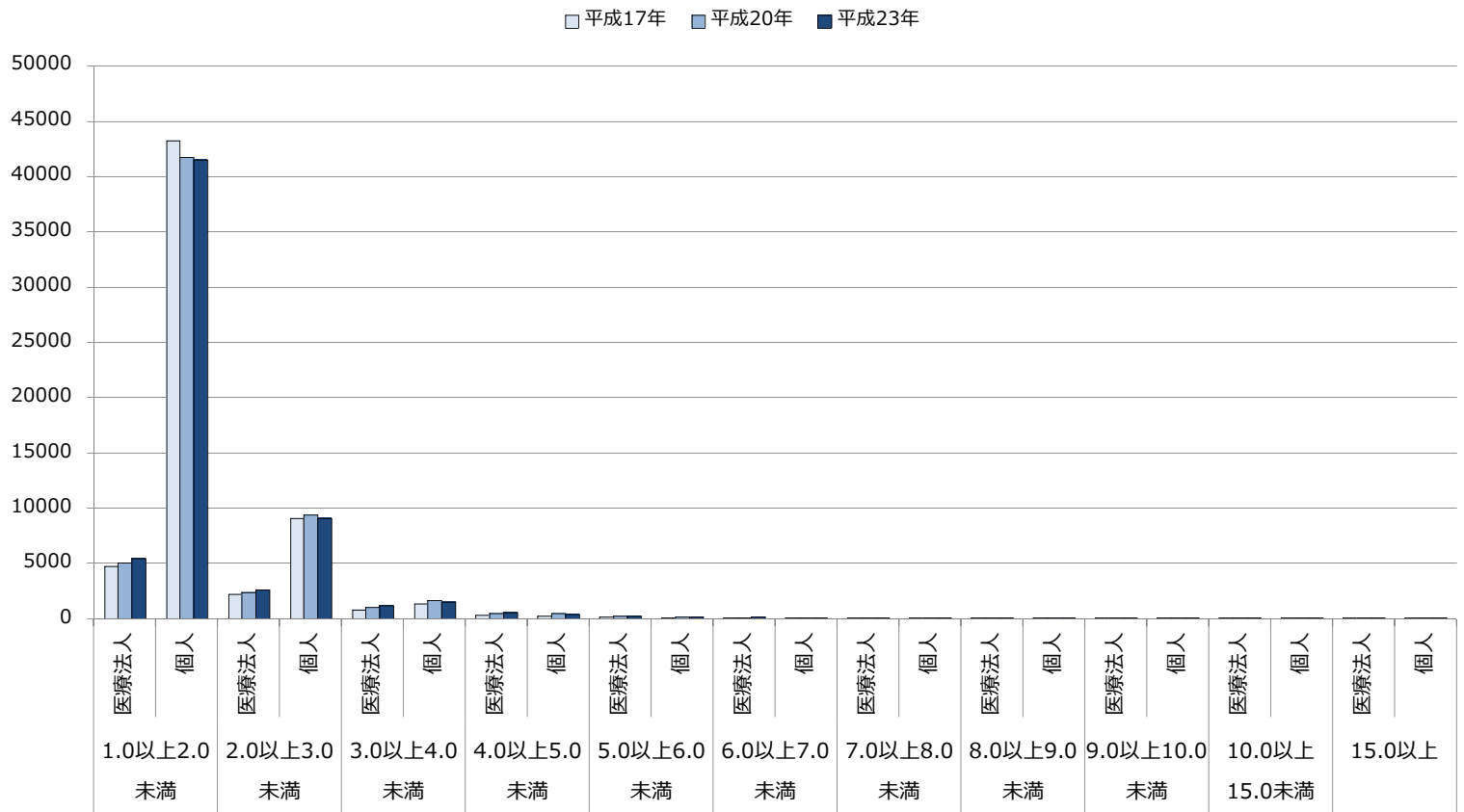
歯科診療台数別の歯科診療所数の推移



注1：不詳は除いている
 注2：平成23年は宮城県の石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県の全域を除いている

(出典：医療施設調査) 19

開設者（医療法人－個人）別・常勤換算歯科医師数別の歯科診療所数

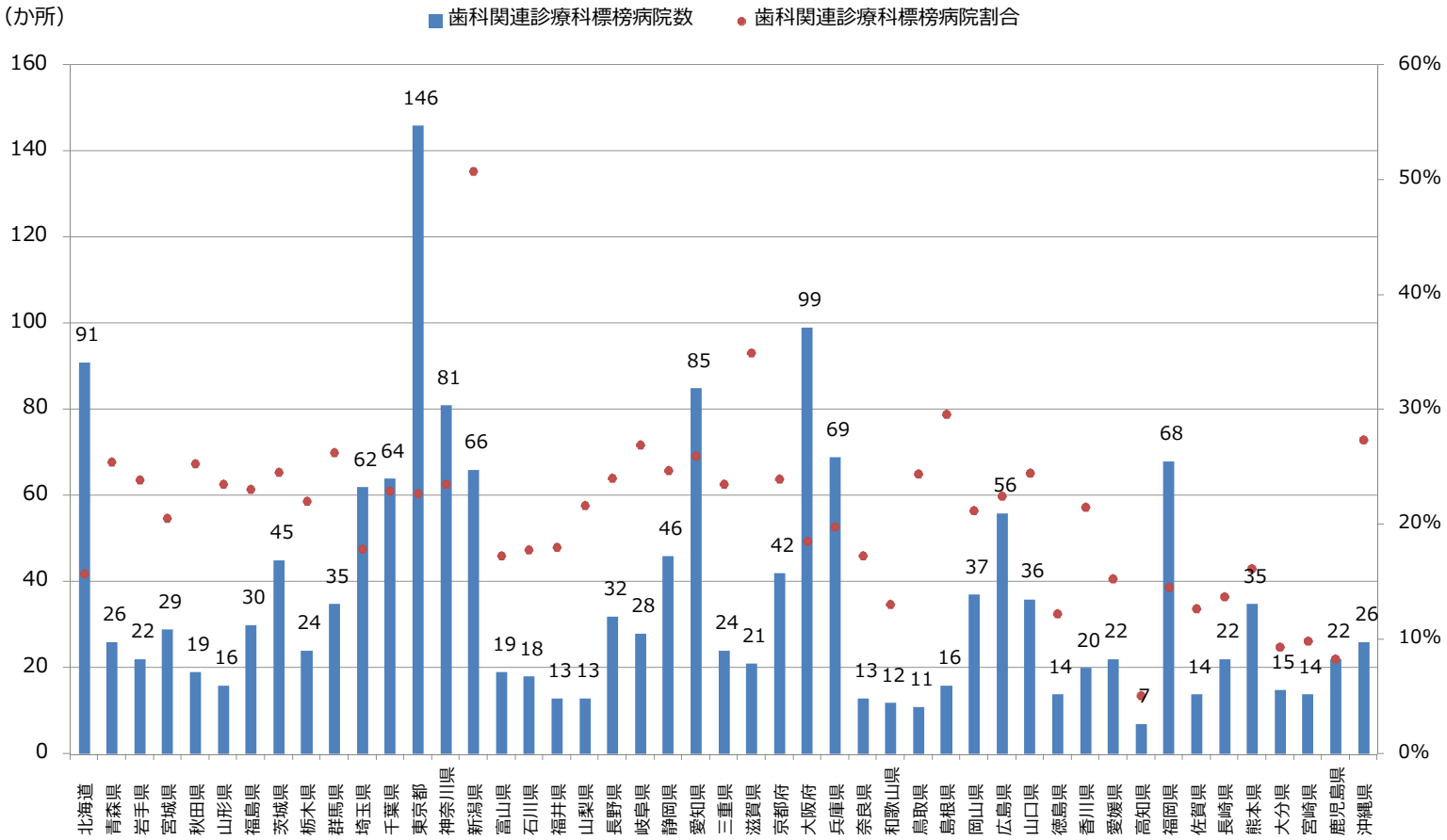


注1：医療機関ごとに集計しているため、医療機関の経営形態（医療法人によるグループ経営等）については不明
 注2：不詳等は除いている
 注3：平成23年は宮城県の石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県の全域を除いている

(出典：医療施設調査) 20

歯科関連診療科を標榜する病院数及び割合【平成23年】

(か所)



注：宮城県の石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県の全域を除いている

(出典：H23医療施設調査)

21

病院に従事する歯科医師数及び歯科衛生士数

歯科医師

	平成25年10月		平成26年10月	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
全施設	1.7	0.7	1.8	0.6
99床以下	0.0	0.0	0.0	0.0
100~199床以下	0.1	0.0	0.2	0.0
200~399床以下	0.8	0.2	0.8	0.1
400床以上	5.7	2.4	5.9	2.4

歯科衛生士

	平成25年10月		平成26年10月	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
全施設	1.0	0.3	1.0	0.3
99床以下	0.1	0.0	0.0	0.0
100~199床以下	0.3	0.1	0.4	0.1
200~399床以下	1.2	0.2	1.1	0.2
400床以上	2.2	0.8	2.3	0.8

参考：調査対象は、病院勤務医の負担の軽減及び処遇の改善を要件とする診療報酬項目を算定している病院、またはチーム医療に関する診療報酬項目を算定している病院の中から無作為抽出した1,000施設（回答数は417施設）。

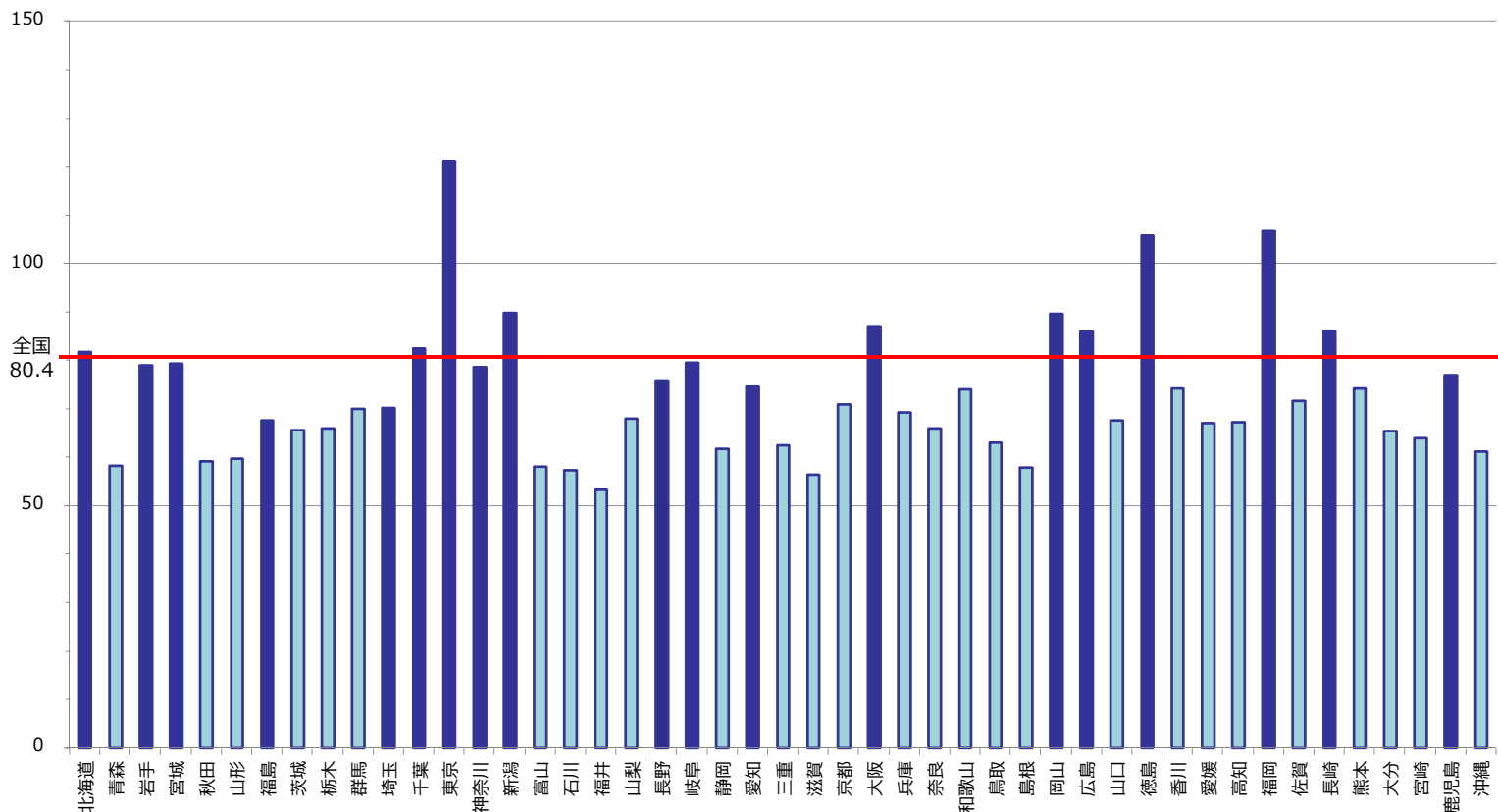
(出典：H26年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査)

22

人口10万人対歯科医師数

歯科大学（歯学部）を設置している都道府県では人口10万人対の歯科医師数が相対的に多い。

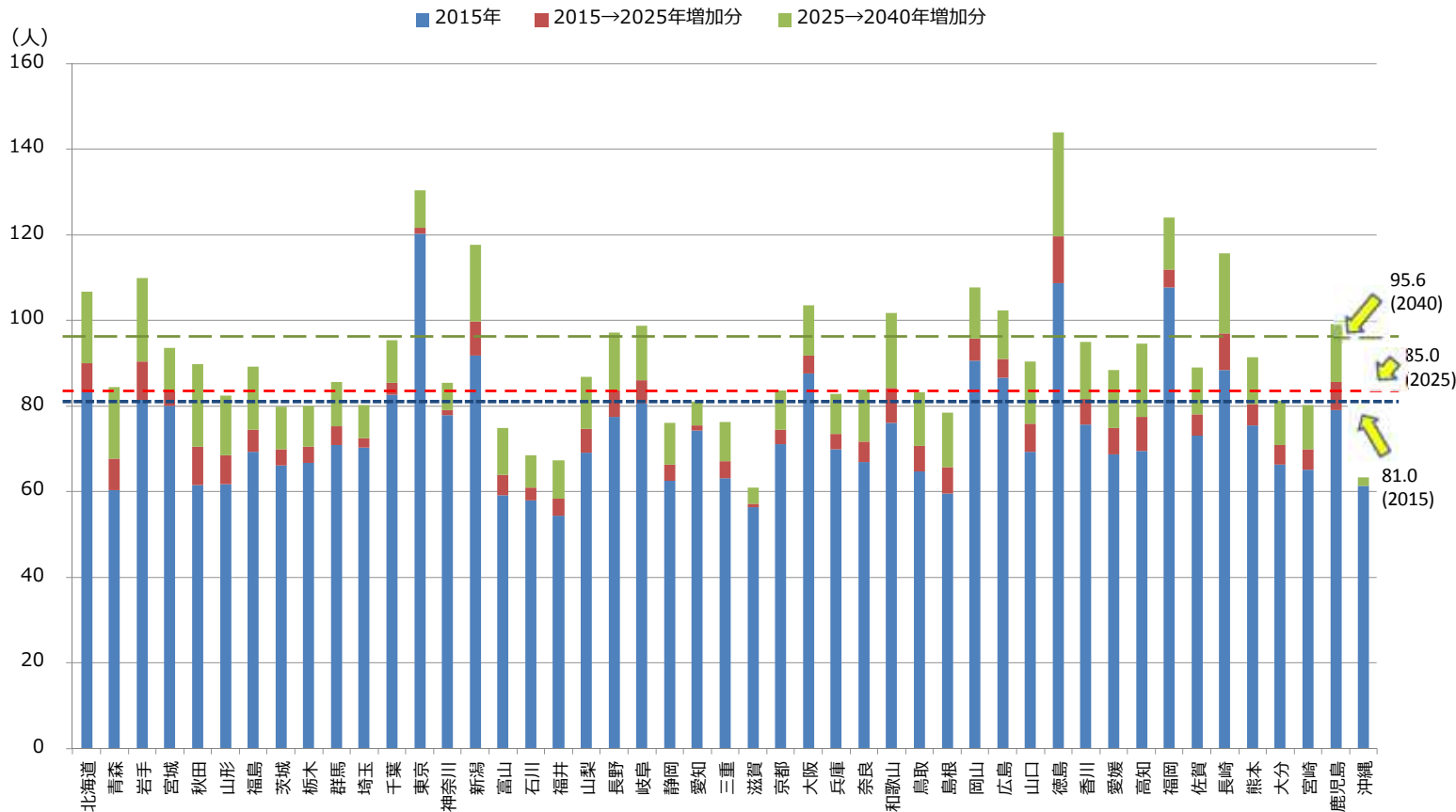
人口10万人対(人)



注) 濃線は歯科大学（歯学部）を設置している都道府県

(出典：平成24年医師、歯科医師、薬剤師調査)

人口推計に基づく人口10万人対歯科医師数予測



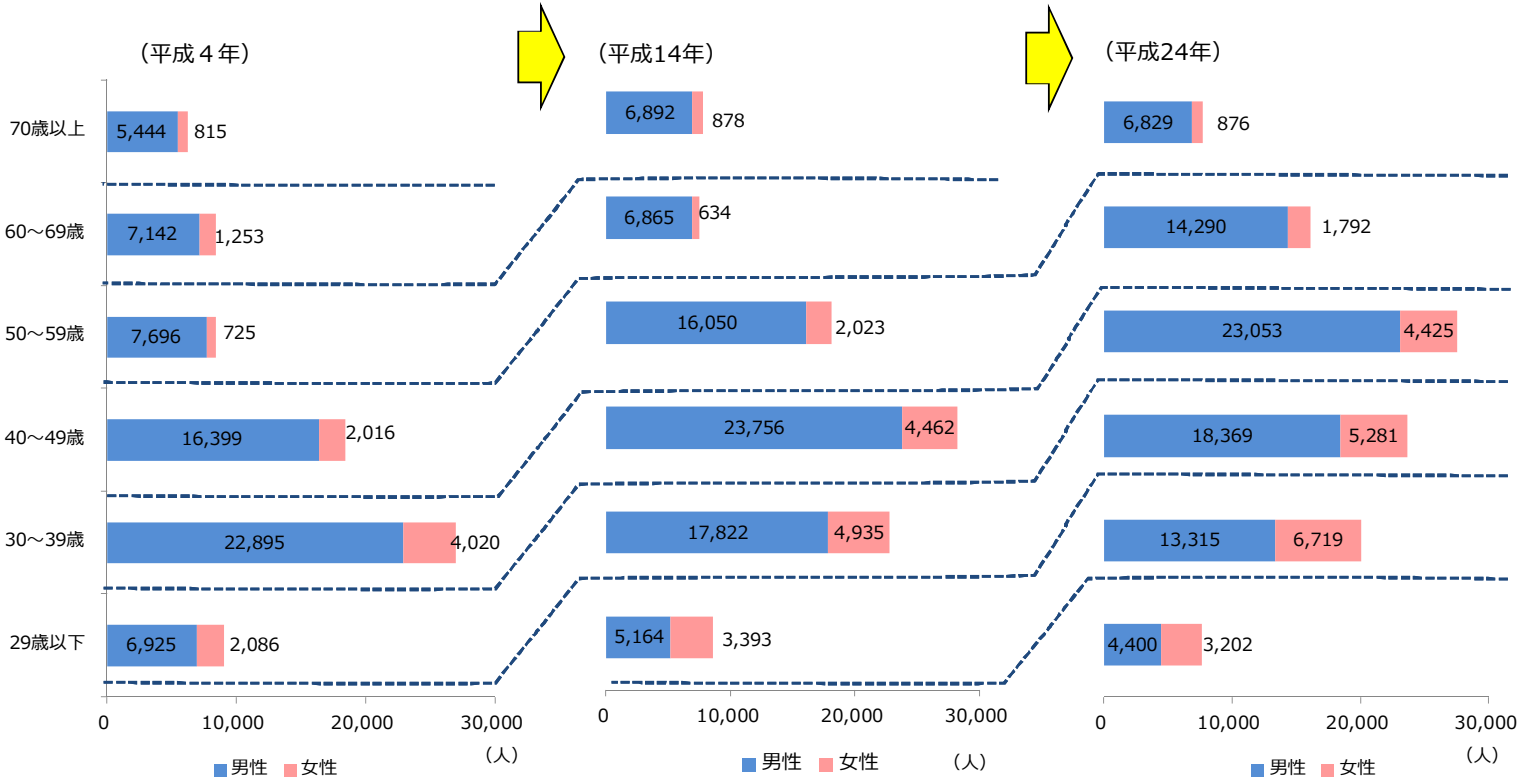
注1) H24年末歯科医師数が変化しない仮定で、地域別将来推計人口を基に人口10万人対歯科医師数を算出

注2) 沖縄県は2015→2025年増加分が-0.2

(参考：医師・歯科医師・薬剤師調査、日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）【国立社会保障・人口問題研究所】)

年齢階級別の歯科医師数の推移

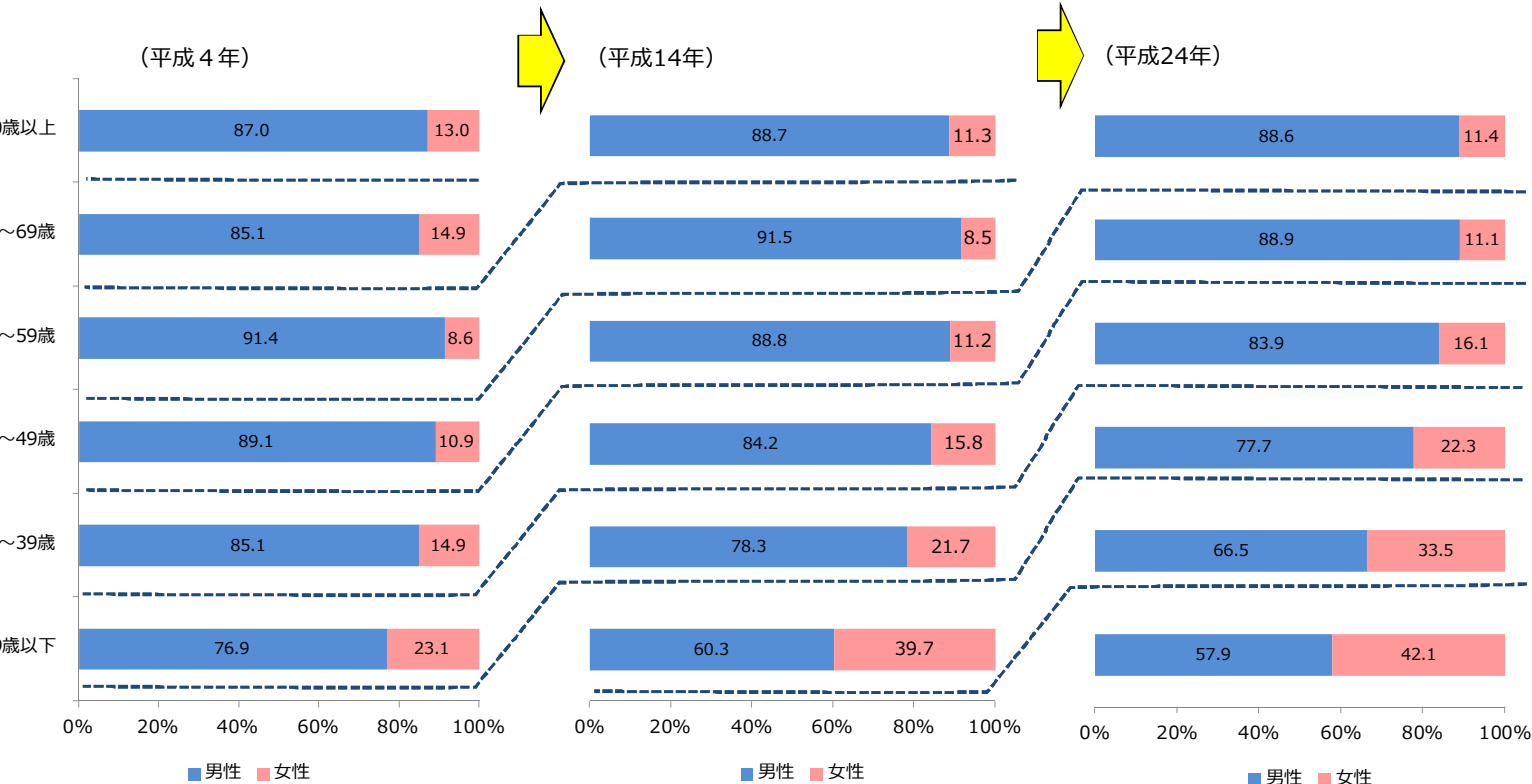
平成24年調査結果で**歯科医師数は50歳代が最も多く、各階級別で開きがある。**



(出典：医師・歯科医師・薬剤師調査)

年齢階級別の男女別歯科医師割合の推移

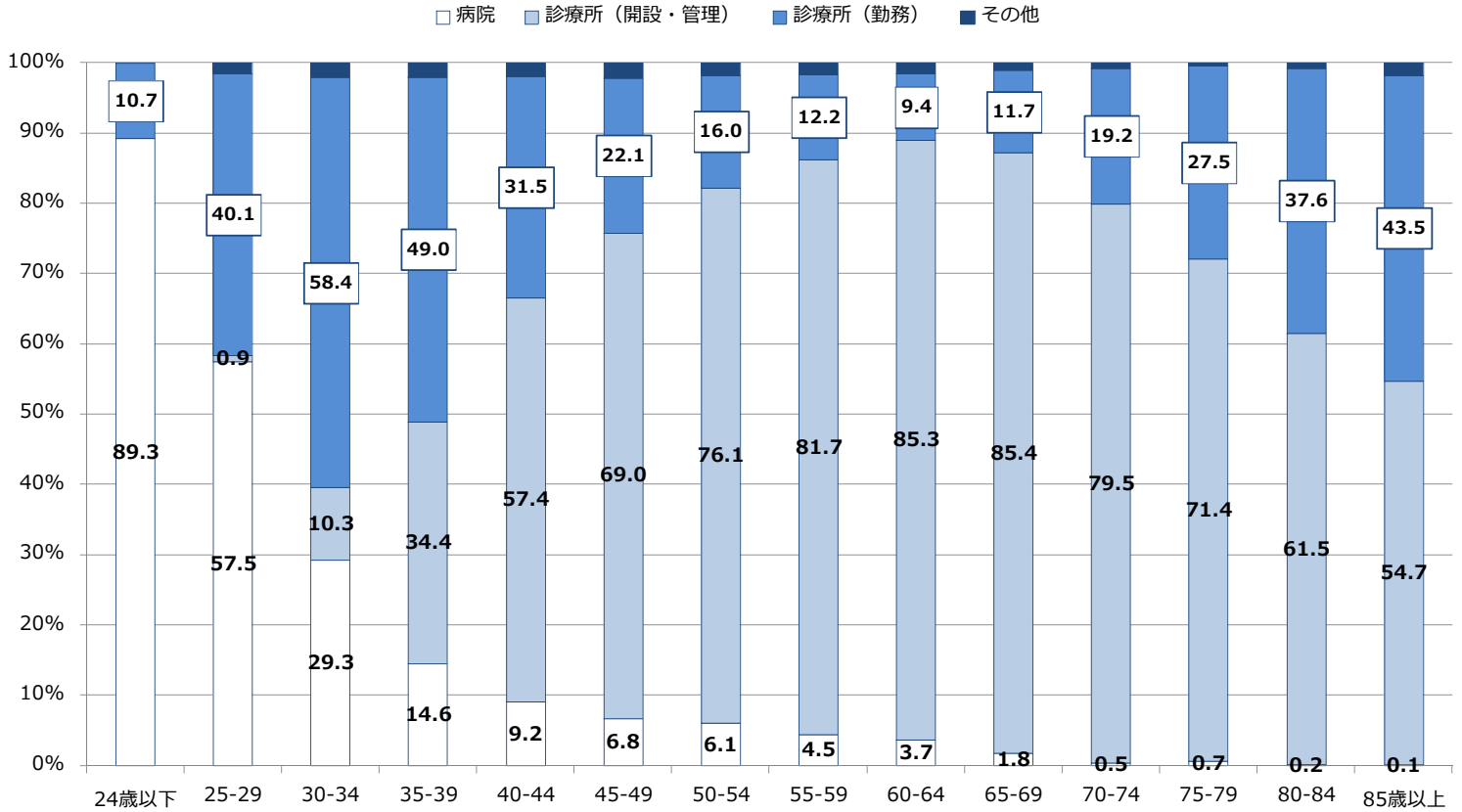
59歳以下の年齢階級において女性歯科医師の割合が増加しており、**30歳代の増加率が顕著。**



(出典：医師・歯科医師・薬剤師調査)

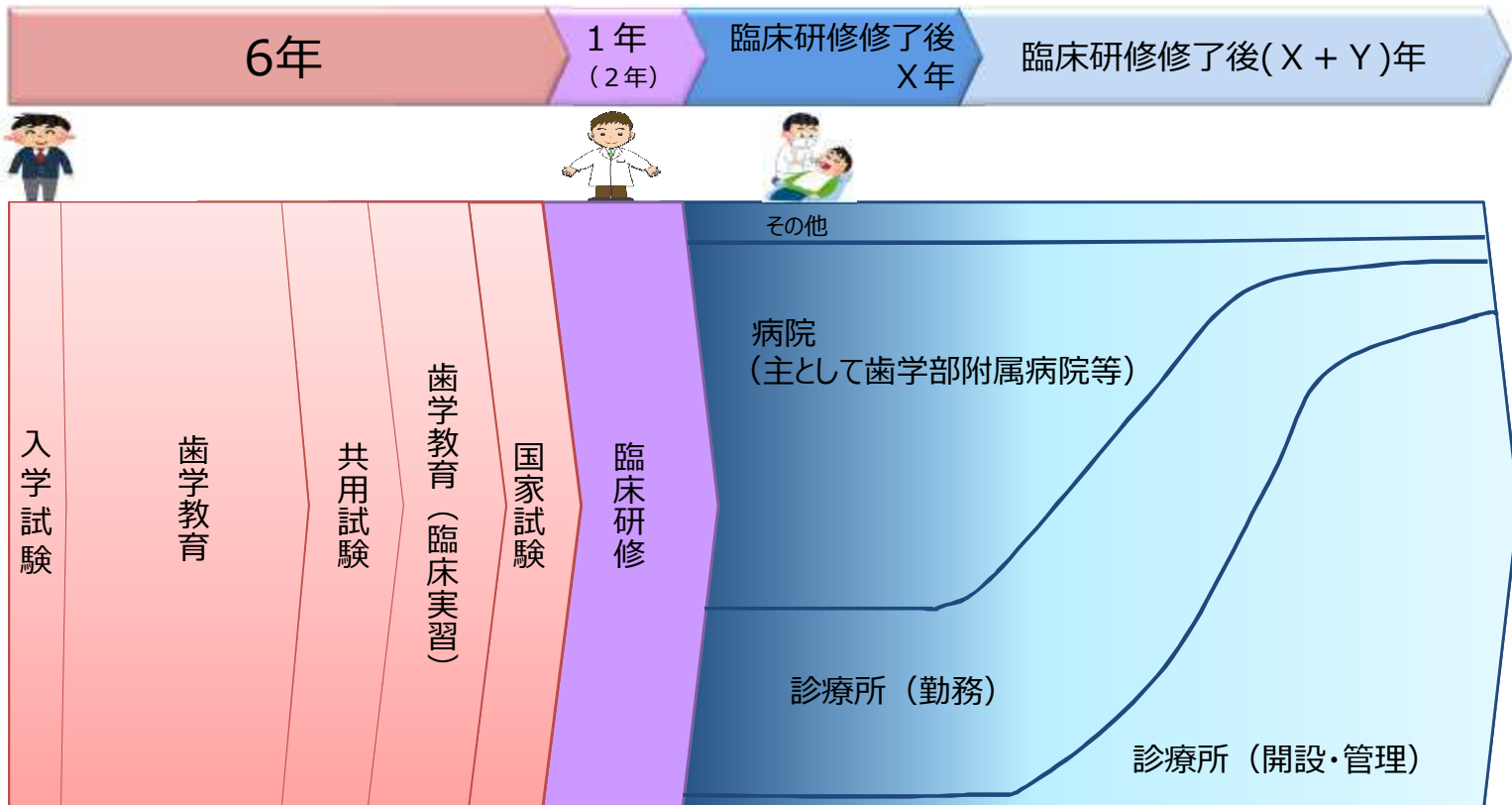
主として従事している歯科医師の就業場所（年齢階級別）

年齢が高くなるにつれて **65～69歳までの年齢階級まで相対的に診療所（開設・管理）の割合が多くなっている。**



（出典：H24医師・歯科医師・薬剤師調査） 27

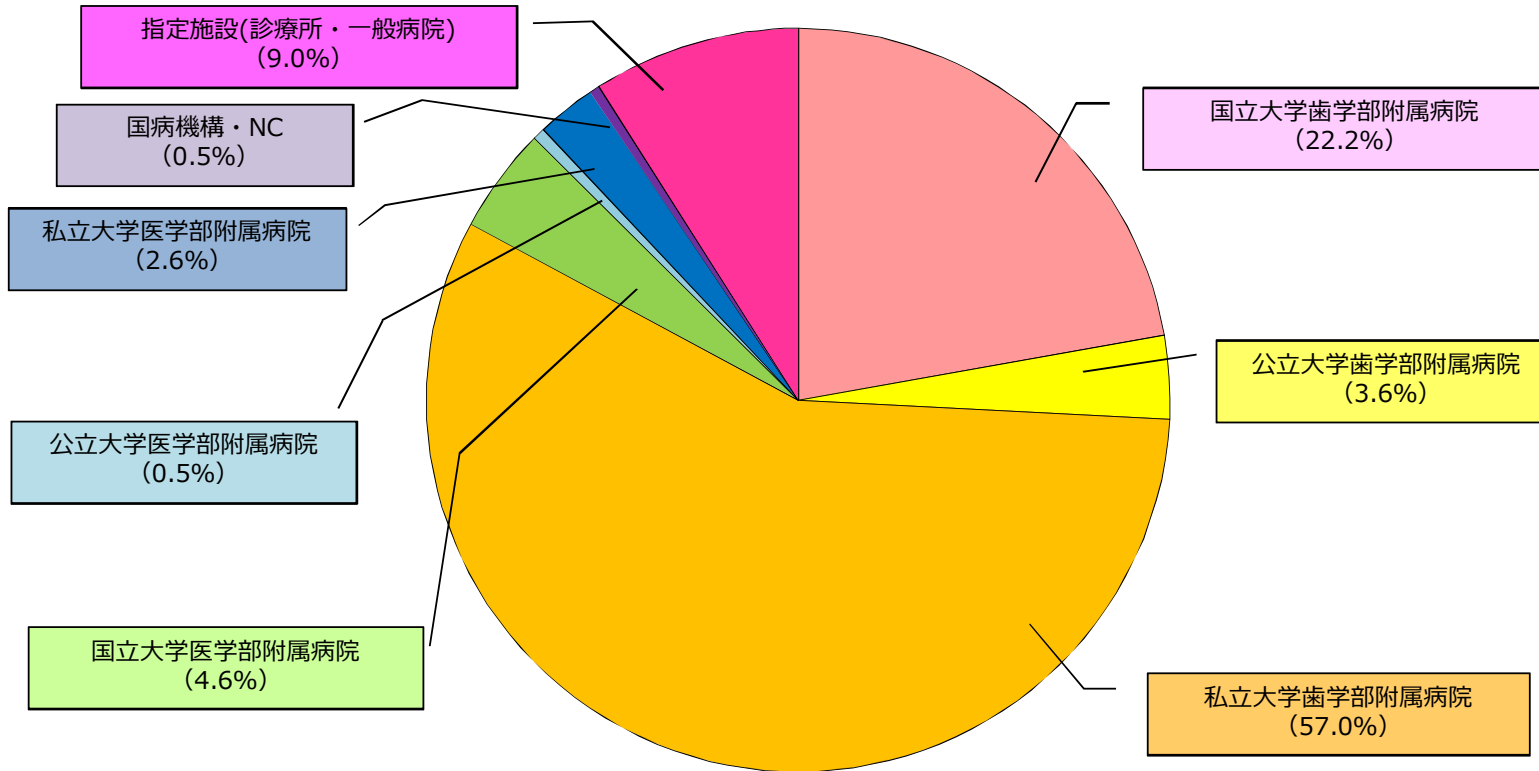
歯科医師のキャリアパスについて（イメージ図）



注) H24医師・歯科医師・薬剤師調査結果を基にイメージ図を作成したものであり、必ずしも正確な数値を示したものではありません

主として臨床研修を受けている施設（単独型・管理型臨床研修施設のみ）

研修歯科医の大部分が**主として歯学部附属病院で研修を受けている。**



(出典：H26歯科医師臨床研修修了者に対するアンケート調査)